



インフォメーションノート  
SALONE DEL MOBILE.MILANO: イベント

Salone del Mobile.Milano 2016  
ロー・フィエラミラノ - パビリオン 15 F15/H18  
2016年4月12～17日

ビフォー・デザイン：クラシック

クリエイティビティ、アート、デザイン、そしてシネマが結びつきクラシックの「いま」を語ります。「驚き」が、時空を超えて従来のクラシック概念を覆し、現代に不可欠な新しいライフスタイル、新しい世界、新しい未来の構築を目的としたプロジェクト。Salone del Mobile.Milano はクラシックにスポットライトを当てます。

近年評価の高いイタリア人映画監督と、ミラノをベースに店舗などの建築、インテリアデザインやビジュアル、アート・ディレクションを手掛けるスタジオ・チャルモリ・ケダ(Studio Ciarmoli Queda)のアート・ディレクションによる展示イベントと短編映画。インテリアにおいて、常に「いま」を意識しつつ、分野横断的に様々な時代におけるクラシックの歴史を語ります。

これらの異なる補足要素を元に、Salone del Mobile.Milano 2016 で発表する「ビフォー・デザイン：クラシック」展は、異なるクリエイティブ分野から、自由で折衷的アプローチによる好循環の中で、まるでロシア人形のマトリョーシカのように、さまざまな材料を収集。クラシック・スタイルの古典的な考えが、驚きと再発見によって一新され、未開拓だった認識の扉を初めて開きます。

「このプロジェクトの話を聞いて、すぐ大変興味を持った。教鞭を執るのでなく映画を通して家具を語ることは是非チャレンジしたいと思った。」と語ったのは映画監督のマッテオ・ガローネ。「広い意味でのクラシックが持つ美しさが、移り変わる時代の中で、その時代に沿った特性を守りつつ、未来の架け橋を築いていく。まるでポスト・アトミックの世界のように、純粋な眼差しで美しいものを見抜く子どもたちは、瓦礫の中から長年守られてきた真の宝物を見つけ出す。歴史と深い絆で結ばれているおとぎの国で、小さな「目利きの管理人」たちは宝物をきれいにしておいて大切に保管し、未来へと継承していく。こうして長い時を経てゆく中で、常にその時代に新鮮なテイストであり続けてゆく。」

大胆で幻想的な映画は、この展示イベントの中の大切なパート。未来のイメージを喚起させる暗示掛かった夢の世界で、クラシックはあらゆる文化の壁を乗り越えてゆく、というアイデアを表現しています。ミステリアスな小さな生き物 - 目利きの管理人 - が、荒野をさまよいながら、価値ある作品 - 金細工が施された家具、塗装されたテーブル、光り輝くクリスタル - を見つけ出し、評価し、未来へと残していきます。



映画に登場するスターである家具などを提供してくれたのは、André du Dauphiné, Annibale Colombo, C.G. Capelletti, Colombo Stile, Création Metaphores, Dedar, Frette, Medea, P&G Cugini Lanzani, Pozzoli, Provasi, Rosenthal, St. Louis, Sigma L2、その他、業界のトップメーカー。

展示イベント、もしくは「多感覚の旅」と呼ぶに相応しいイベントは、シモーネ・チャルモリとミゲル・ケダによって発案され、Salone del Mobile 開催中にクラシック家具の美しさと、それが併せ持つ現代的要素を披露します。

パビリオン 15 の F15/H18 に 800 m<sup>2</sup>を占有する展示のコンセプトは、パラディアン・ヴィラからインスパイアされ、連なる部屋を進む毎にマルチメディアとセンサーによるインスタレーションが徐々にベールを剥がす、という仕組み。8 つの異なる部屋それぞれがテーマに沿った特徴を持ち、展示の真髄を見せていきます。舞台は、サッピオネータにある最古の劇場、「オリンピコ劇場」（世界文化遺産登録）の、その歴史の歩みと共に革新し続ける力強さから発想を得ました。

ある部屋は光を、ある部屋は陰を、異なるムードと情緒的ディスプレイでそれぞれの部屋がインスタレーションされ、また、饗宴の間やミュージック・ルームを手掛けたのは、独特で繊細な技法のアーティスト、リサ・ランピッリ。また、マルコ・バスタは、陶器の皿にクラシックの着想を得たデコレーションを施しています。

この古代劇場（史上最古の屋根付きローマ風劇場）「オリンピコ劇場」が、この展示の核であり、インスタレーション全ての概念の基盤となっています。いわゆるモノリスのような構造が、クラシックとモダン建築を溶かし合うように一つにする。短編映画はインスタレーションの中で繰り返し流れ続け、訪れる人を今まで体験したことのない空間へと招き入れます。

「ビフォー・デザイン：クラシック」のグラフィック・デザイン・ロゴにも、その特徴が表れています。クラシックとモダンが共存する中、極エレガントで極シンプルに、Sans フォントにローマンキャピタル、スペンセリアンは手書きでデザインされ、独特な異なるティポグラフィが力強く語りかけます。

展示の製作に関わったコラボレーター:

CC Stone – marble decorations; Oikos – painting; Tabu – wood flooring; Fromental – hand-painted wallpaper; Ferreira de Sà – carpet; Dedar – textiles; Frangi – theatre decoration; Voghi – textiles.

イベント紹介ページ:

<http://www.salonemilano.it/en/manifestazioni/eventi-appuntamenti/lista-eventi-del-salone/2016/before-design-classic.html>